

BASE Vol.126

実践的基礎知識 育てる投資編(7)

2020/11/26

＜世界経済の成長をとらえる ～グローバル株式投資のリターンの源泉～＞

世界経済の成長をとらえる ～グローバル株式投資のリターンの源泉～

資産を成長させることを目的とした「育てる投資」の代表格であるグローバル株式投資ですが、そのリターンの源泉は世界経済の成長に他なりません。今回は、世界経済の成長とグローバル株式投資のリターンの関係について解説いたします。

世界経済の成長をとらえるグローバル株式投資

世界経済は、長短様々な経済サイクルを経て、過去数十年に渡って大きく成長してきました。経済が成長することとはGDPが実質的に(インフレ率を差し引いて)増えることです。GDPは国内総生産のことで、1年間に国内で生み出された付加価値額の合計です。付加価値とは平たく言えば利益のことです。つまり、GDPは1年間に国内で生み出された利益の合計額のことであり、このGDPが増えるということは利益を生み出す主体である企業の生み出す付加価値が増えることに他なりません。

また、GDPは【1人当たりGDP×人口】と表すことができ、世界のGDPは経済効率の向上(1人当たりGDPの増加)と人口の増加により増えてきました。今後も、技術革新やインフラの整備などによる経済効率の向上と人口の増加が予想され、世界の経済は成長していくと考えられます。

グローバルに分散した株式投資では、企業利益の増加を背景とした株価上昇や企業利益の一部が還元される配当収益によって、こうした世界的な経済成長をとらえることができると言えます(図表1)。一方、十分に分散されていない場合、たとえば単一国投資の場合には、株式が時に行き過ぎたり出遅れたり、大幅なバリュエーションの調整があったり、といった場面が多くなる可能性があります(図表2)。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく、元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。※当資料で使用したMSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

図表1:世界経済の成長と先進国株式の推移

(月次、円ベース、期間:1971年1月～2020年8月)



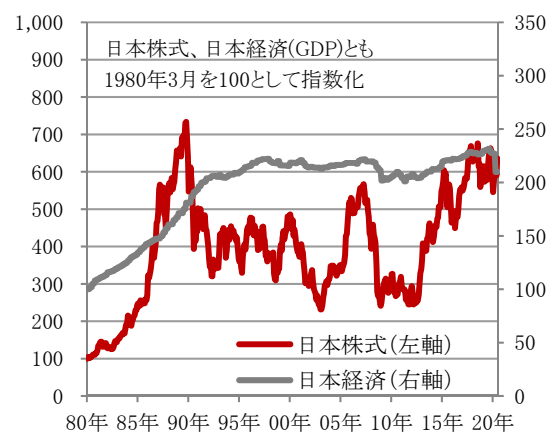
71年76年81年86年91年96年01年06年11年16年

世界経済:世銀統計の世界全体のGDP、先進国株式:MSCIワールド指数、いずれも円ベース。

出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表2:日本経済の成長と日本株式の推移

(月次、期間:1980年3月～2020年8月)



80年 85年 90年 95年 00年 05年 10年 15年 20年

日本経済:世銀統計の日本のGDP、日本株式:MSCI日本指数。

出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成